

無菌性髄膜炎

無菌性髄膜炎には、エンテロウイルス、ムンプスウイルス、ヘルペスウイルスなどのウイルスやマイコプラズマ等様々な病原体が関与します。なかでも、エンテロウイルスが原因の大部分を占めるため、エンテロウイルスの流行時期である夏から秋にかけての発生が最も多くなっています。2013年1月から2014年9月までに埼玉県内で無菌性髄膜炎の診断で採取された検体からのウイルス検出状況を表に示しました。

2013年は全国的にエコーウイルス6型、エコーウイルス30型が多く検出されましたが、県内ではコクサッキーウイルスB3型、コクサッキーウイルスB5型、エンテロウイルス71型が多く検出されました。2014年は、パレコウイルス3型が検出されており、全国的にもパレコウイルス3型の検出が多く報告されています。パレコウイルス3型は重症例の報告もあり、県内でもその動向に注目することが必要です。

無菌性髄膜炎検体からのウイルス検出状況(2013~2014年9月)

検出ウイルス	年 検体数	2013	2014(9月まで)
		111	70
コクサッキー A6		1	
コクサッキー B1		4	
コクサッキー B3		10	4
コクサッキー B4		3	
コクサッキー B5		10	
エコー 3			1
エコー 6		2	
エコー 9		2	
エコー 11			2
エコー 18		2	
エンテロ 71		9	
エンテロnt		2	1
ライノ		2	3
パレコ 3			6
単純ヘルペス 2		2	
単純ヘルペス 6		3	1
単純ヘルペス 7		3	2
サイトメガロ		1	1
ロタ(A)			1
パラインフルエンザ 2			1
アデノ 5			1
検出ウイルス計		56	24

県内での流行状況を知るために、病原体定点医療機関の先生方におかれましては、検体採取にご協力をお願いいたします。